

# 『物思いの喜劇』

作..清野 和也

## ◎登場人物

白樺	山子	(女／白樺家長女)
白樺	しゃくなげ	(女／白樺家次女)
白樺	あづま	(女／白樺家三女)
白樺	たら子	(女／白樺家四女)
白樺	一久	(男／声のみ／白樺家長男)
ワコ		(男／心中未遂をした男性)
島田	中吉	(男／白樺家近所の男性)
桐谷	銀次郎	(男／借金取り)

物思いの喜劇

大正十二年（1923年）八月三十一日。吾妻山の麓にある信夫郡佐倉村（さくらむら）。かつては豪農だった白樺家の室内。馬と人が同じ屋根の下で暮らす馬屋中門（ちゅうもん）造り。馬屋が玄関から入ってすぐの左手側にあるが、そこに馬の姿は無い。

この家には四人の姉妹と一人の長男が住んでいる。彼らの両親はすでに死去。長男一久は、病に伏せており、この家の切り盛りはすべて長女の山子が担っている。豪農だった時代の財産は父親が博打でほとんどを散財。一久の薬代などが家計を圧迫し、借金を抱えている。

八月下旬だというのにうだるような暑さで、蝉の声すらおとなしい日。白樺家三女で女学生のあづまが幼馴染の中吉を連れ、玄関から入ってくる。

あづまちやん、本当に入つて良いの？

四  
一

あづ  
上

中吉

あづま 待つた、黙つて！  
(普段無いはずの履物を見て) いるな。

中吉 帰るはうかいしよれ?

卷之三

あづま  
一生！  
一生後悔する

中吉

あづま、中吉が隠れたのを確認して

あづま  
(大きな声で) ただいま帰りましたーー!

山子  
(奥の部屋から出てきて) あづま、おかえりなさい

あづま  
山姉さん、今田仕事じやなかつたの？

2

物思いの喜劇

山子

あづま

それどころじゃなくてね、

兄（あに）様？ 悪いの？

兄様は、いつもどおり。つまり悪い

あ、桐谷が来る日だつけ？

それもある。

返せるお金あるの？

無い。そんなことより、

そんなことって。この家もとられちやうんじやないの？ いい加減、  
いいから！ あづま、こっちに来て座りなさい。大切な話があります。

はいはい。

早く来なさい！

山子

あづま

山子

あづま

山子 どうにそんなお金があるんですか。この家すらとられそなのに、

たらちやん、拾つてこないかな。大金持ちの成金（なりきん）のひと。

馬鹿なこと言って、

今朝お願いしてみたのよ、成金拾つてきてって。ほんと、なんでもかんでも  
拾つてくるからさあ…。たまには山姉叱つてよね。

たら子つたら偉いのよ。本当にひとつが大切にしてそうなモノはちゃんと先  
生に渡すの。誰も要らなそうなものだけ拾つてくるの。  
そんなものはウチでもいるないの。

あれもこれもそれもたら子が拾つてきたものよ。  
だから貧乏神が出ていかないんだって！

たら子はこの家のために頑張つてるんです。あなたはなんです、女学校でち  
ゃんと勉強してるんでしきうね？

それで何の御用でしきうか、山子お姉様？

しゃくなげがこの家を出るつもりだそうです。

あ、そう。

物思いの喜劇

山子 あなた知っていたのですか！？

山子 昨日聞いた。

山子 なんでそのとき姉さんに言わなかつたの！

山子 聞かれなかつたから。

山子 あづま！

山子 だつて、てつきり、山姉も知つてるもんだと思つてたから。

山子 今朝聞きました。仕事行く間際に。

山子 あづまなんだ。

山子 なにがなんでも止めますからね。

山子 行かせてあげればいいでしょ。東京でしょ。

山子 そしたらこの家はどうやつて生きてくの？ あなた働くしかないわよ。

山子 えー、それは。

山子 もちろん、それはしたくありません。せつかく母さんがあなたを通わせてく

れただだから。

山子 うん…。

山子 なにがなんでもしゃくなげを止めなさい！ 良いですね。

山子 はーい。

山子 解りました。

解りました、山子お姉様。：でもさ！しゃく姉が東京で稼いでこの家にお金を入れてくれればいいだけの話じやない？福島よりずっと稼げるつて。

山子 あの子、東京に行って何をするつもりか聞きましたか？

山子 女優でしょ？

山子 いかがわしい。

山子 別にいかがわしくないって。

山子 せいぜいあの女優みたいになつておしまいよ、心中した…、

山子 松井須磨子？しゃく姉だよ！？絶対無いつて。

山子 いいから！しゃくなげの荷物はまだ家にあります。帰ってきたら、絶対に外に出さないこと。いいですね。

(奥の部屋から声のみが聞こえる) 山子、山子…。

一久

物思いの喜劇

山子 兄様、今、参ります。

あづま まあ姉さんは兄様の看病してあげてよ。どーんと任せといて!

山子 あづま。この家はあなたにかかるてるの！  
はーい。

あづま あづま

山子、一久のいる奥の座敷に退場

あづま 中吉ちやん、中吉ちやん。

中吉 帰ったほうが良いね。山子さんがいるんじや、

あづま 想定外だったな。山姉、島田の家、憎んでるからなあ…。

中吉 こないだ見つかったときなんか篠持つて追いかけられた。

中吉&あづま 島田の家の者は入ってくるな！

あづま 鬼だよ、あれは。中吉ちやんが悪いわけじゃないのにね。

中吉 ウチの父ちやんが悪いから。

あづま 騙された方も悪いんだよ。ま、山子も兄様のやつが始まつたら、しばらく付きつきりだから。…しゃく姉の話、聞いてたでしょ。だから今日しかなわけ。

中吉 いや、そのさ、

あづま 中吉ちやん、しゃく姉のことよろしく。ひとりで東京行かせるの心配だったの、正直。ああ見えて、抜けてるところあるし、

中吉 なんのこと？

あづま 中吉ちやんも、家出たいって言つてたでしょ。ちょうどいいって。

中吉 待つて待つて、あづまちやん。

あづま 家とかそういう時代じゃないの。大正よ、大正。明治が終わつて時代は大正、いつの間にやら十二年。ふたりで駆け落ち、花の東京、大正ロマン！

中吉 勘違いしてない？

あづま 解つてるつて。しゃくなげ姉さんのこと好きなのは。でもまあ、山姉が許してくれるわけもないし、

中吉 いや、あのね、

物思いの喜劇

あづま みんなまで言うな、野暮ではないか。山姉は私が力づくで止める！元はと言え  
ば、山姉が悪いんだから、

中吉 そうなの？

あづま ほら、武蔵よ。

中吉 誰？

あづま 馬よ、馬。いたでしょ、入り口のところ。大事にしてたの。しゃく姉。それ  
勝手に売っちゃったの。

中吉 山子姉さんが！？ひどいね。

あづま お金無いから、解るけどさ。でも、しゃく姉にとつては、武蔵が心の支えだ  
ったわけ。愛してたよ、あれは。…売られたこと知つて三日三晩食うもの食  
わず泣き続けて、仕事も休んでね。

中吉 あのしゃくなげさんが！？

あづま で、今朝、東京行つて女優になるからつて。  
中吉 急だね！？

あづま しゃく姉には、この家にいる理由なんて、あの馬しかなかつたつてことよ。  
わかんなくもないな。だから私はしゃく姉の力になるの。

中吉 でもしゃくなげさんいなくなつたら、あづまちゃん女学校通えなくなつち  
やうんじや。

あづま …仕方ないよ。もともとうちみみたいな貧乏が通えるところじゃないし  
でもあづまちゃんは、

あづま でもでも言わないの！学校やめてさ、東京で素敵なモダンボーイ見つける  
のもいいなあ。

中吉 東京行きたいんだ、あづまちゃんも。  
あづま 中吉ちやんもでしょ？

あづま 中吉 あ… うん。僕は…、

あづま 中吉 ウジウジしてたら好機を逃すよ…あのね、最後だと思って言っておくよ、  
…うん。

あづま 中吉 あ…！誰か来た！

中吉 とりあえず隠れるね！？

物思いの喜劇

あづま 走るな！ 家が壊れる！  
中吉 はい！

中吉が隠れると、四女のたら子が良い身なりをしたワコを連れて歌いながら帰ってくる。ワコは服が濡れている。

たら子 ♪ こがね虫は 金持ちだ 金蔵（かねぐら）建てた 蔵（くら）建てた

飴（あめ）屋で水飴 買つて來た♪

あづま たらちやんお帰りー。

たら子 ただいまー。

ワコ お邪魔します。

あづま あ、はい、こんにちは…。えっと、たらちやん、この方は？

たら子 あ！ えっとねえ、なりきんちゃん。

ワコ はい、なりきんです。

たら子 なりきんちゃんです！ わたしは、たら子です。よろしくお願ひします。

ワコ たら子 このひとは、お姉ちゃんのあづまちやんです。

あづま たら子の姉のあづまです。あの、ビショビショですが、

ワコ あ、大丈夫ですよ。お世話になります。

たら子 たらちやんには、あづまお姉ちゃんと、しゃくなげお姉ちゃんと、山子お姉ちゃんがいます！

ワコ 四姉妹なんですね〜。

たら子 あと一久お兄ちゃんがいるけど、一久お兄ちゃんはご病気です。

ワコ そうなんですか。大変ですね。

たら子 はい！かけいが火の車です！

たら子 あづま たらちやん。この方、どうしたの？

たら子 あづま あづまお姉ちゃん、このかたじやなくて、なりきんちゃんだよ？

たら子 なりきんちゃんどうしたの？

たら子 拾つた！

物思いの喜劇

あづま  
ワコ 拾つた！？  
あづま 拾われました。  
お姉ちゃん！！山姉ちゃん！…！たらちやんが成金拾ってきた！！

山子 出てきて

山子 成金！？  
たら子 山子お姉ちゃん、なりきんちやんです。  
ワコ なりきんです。

たら子 山子 イチバン上のお姉ちゃんの山子お姉ちゃんです。

山子 あづま  
ワコ あー、お構いなく。

山子 たらちやん、手洗って、お庭のお野菜にお水あげてくれる？  
たら子 はーい！

たら子退場

えっと…。  
あ、お世話になります。どうぞよろしくお願ひいたします  
あの、ちょっと待ってくださいね。その、たら子が拾つたというのは。  
文字通りとして…。拾つていただいて、  
…これは、えっと、大変失礼いたしました…。  
失礼だなんてとんでもない。つまりは命を救つていただいたんです。  
命を？  
ええ。実はある女性と荒川で心中を試みまして。  
心中！？  
だけど、まあ、一緒に身を投げようとした女性が、イザというところで尻込みをしだした。こっちはすっかりその気になつてましたね、頑張れ、諦め

物思いの喜劇

るな、死ぬ気になれば絶対できると。でも、あの子、僕を置いて逃げてつちやつた。馬鹿らしくなつて止めようと思つたのですが、足を滑らせて荒川へと真っ逆さま。どんぶらごどんぶらこと流れたのですが、運良く河原に流れつき、そこをたら子さんに救つて頂いたと。

山子

「……聞けばこの家では一おちでるものはないからこの白柳家のお恵みものこれがお母さんのわたしへの遺言。わたしはそれを守つてゐるの」と、健気な

あ・・・えつと・・・でもですね、さすがに人様を拾つてというわけには…。

ワコ  
ああ、ご心配なく。雨風しのげる寝床と、すこしの粟をいただければ構いま

山子  
年頃の妹たちもおりますし、その、

あづま  
成金なんですか！

あづま  
成金はいじか  
か！？！？

ワコ まあ、生まれてこの方、金には困ったことはありませんね。

あへま  
よろしくお原いしま

あづま  
せつかくたらちやんが拾つてきたんですもの。ね。兄様の服借りてこよう

か？そのままじや風邪ひいちやうもの。

あづま  
ちょっと良いことでしょ、成金でしょ！

ワコ  
成金ですよ。

山子　心中としましたね。ご実家とはご縁が切れてるんではなくて？

山子  
：正直な話、胡散臭い！

日如萬石酒樓、三才閣、二不老。

…たらちやん、どうせならあの馬拾つてくれれば良かつたのに。



物思いの喜劇

山子 そうね。

あづま 無理でしょ、山姉

山子押す！

ワコ  
(馬の鳴き真似) イーン!

山子・あづま うまい。

ワコ  
馬だけに?

卷之三

三女の一やくよが「ゴノドラの具」を歎ひながら歸つてくる

しゃくなげ  
♪いのち短し  
恋せよ乙女

あかぎ層  
褪(あ)せぬ間に

熱き血潮の  
冷えぬ間に

山子

皆さん、長い間、たいへんお世話になりました。あづま、荷物、まとめててしゃくなげ

ウエタツ

十一

しゃくなげ 嫌。

山子

山子

しゃくなげ  
「決めたことはやりなさい。」それが、母様からの私への遺言です。

山子  
行かないでモシ一  
回決めればいいでし。

ムの母様からの費言は、「二家のめぐらを守る二三。」

しゃくなげ  
守れてるの？

山子

物思いの喜劇

しゃくなげ

あづま

しゃく姉。

しゃくなげ

山姉が裕福なだれかに婿入りしてもらえればよかつたのにね。  
一久兄様がいるでしょ、この家の跡取りは。

しゃくなげ

病気がちでしょ、よくある話じやない。

山子

しゃくなげ！

山子

そうしたら、私が東京行くことだつて、誰も文句言わなかつたんじやない？  
……あんた。大事な子を置いて東京行くつもり？

しゃくなげ

大事な？

山子

そうよ。あんたの馬！

山子

え！武藏！？

山子

そう。あんたが大事に大事にしてきた馬。…たら子がね、今日拾ってきたの。  
本当に！？

山子

あんたが愛しくて、買われたところから逃げ出して、そのまま濁流の荒川に  
飛び込んだんだろうね。河原にいたところをたらちやんが拾つたの。

しゃくなげ

どこにいるの！？

山子

馬小屋にいたでしょ。

しゃくなげ

本当に！？

山子

見てきなさい！

しゃくなげ

うん…！

そこに桐谷銀次郎が出てきて

銀次郎

お邪魔しまーす。

山子

桐谷さん、

銀次郎

おや、こんな昼間に珍しいですね。姉妹まるつとお揃いで。  
そこ、どいて。

しゃくなげ

しゃくなげさん。助かつたよ、あんたが一番話通じるから。  
借錢のことなら姉に話しをしてください。

銀次郎

しゃくなげ  
借錢のことなら姉に話しをしてください。

物思いの喜劇

銀次郎

この白樺家の借金なんですよ。しゃくなげさんに関係の無い話じゃないんです。ゆっくりお話ししましょう。今日は珍しいもんも持ってきたんですよ、ナマズの洗いです。

しゃくなげ

私、この家とは縁がなくなりますので。

銀次郎

ええ、そうなんですか！？ 嫁入りですか？

山子

しゃくなげ！あんた、

しゃくなげ

何を言われても行きますから！

山子

…本当にごめんなさい。あなたに相談したら絶対に反対されるって解つて

しゃくなげ

た。だから勝手に売りました。

山子

…

しゃくなげ

本当に本当にごめんなさい。初めて見た。山姉が妹に頭下げるところ。

山子

…あなたに行つてほしくないの。どうしても東京に。

しゃくなげ

…仕方ないと思つてる。武蔵、足、怪我しちやつたんだもん、解つてたよ。

あづま

しゃくなげ

怪我した農耕馬よ。売つたら、きっと誰かに食べられちゃつたんだろうなあって、悲しくて悔しくて…。でも、良い。戻つてくれたんでしょ、武蔵。

しゃくなげ

うん、だから、

しゃくなげ

…山姉、違うの。私、本気で東京に行きたい。本気で女優になりたいの。

山子

それは絶対に駄目です。

しゃくなげ

山姉！！

山子

あんたろくに芝居なんて観たこともないでしょ。

しゃくなげ

ある！ 七年前の夏！

山子

その一回だけでしょ。

しゃくなげ

…そうたつた一回一度きり、福島座の舞台の上。松井須磨子のカチューシャに、彼女が歌つた「復活」に、それからずつと心惹かれてた。たつた一回一度きり。だけどその一回が忘れられない。

山子

あなたがなれるもんですか。

しゃくなげ

自分が一番思つてたよ。でもね、母様が歌うと褒めてくれた。

物思いの喜劇

山子

しゃくなげ

あんたの歌は素人の歌！田舎娘の歌！

知ってる！でも、山姉もあづまもたらちゃんも私が歌うたび喜んでくれた。  
悪いことは言わない。諦めなさい！

山子

しゃくなげ

もう決めたから。武蔵と一緒に行つてきます。  
しゃくなげ！！

山子

銀次郎

…行かせてやりなよ、山子さん。

山子

銀次郎

よそ者が首突っ込まないで！  
よそ者じやねえよ、家族みたいなもんです。

山子

銀次郎

は？

オレの師匠が言うんです。借金取りとその家は、金の切れ目が縁の切れ目。  
借金ぜんぶ返し終わるまでは、決して他人じやねえ、家族なんだってね。  
この子が東京で失敗したら、借金が増えるだけ。

山子

銀次郎

そんときは縁が更に深まるつてわけで。

山子

銀次郎

今すぐ断ち切りたいの！

山子

銀次郎

オレはね、感動しましたよ。しゃくなげさんのデカい夢！

山子

しゃくなげ

ありがとうございます、桐谷さん。それじゃあ皆さま、お元気で。武蔵！行きましょう！

山子

あづま

しゃくなげ！

山子

山姉、走らないで！家が壊れる。

山子

くうう！

しゃくなげ、ワコを連れて出てくる。ワコは顔を隠している

ワコ

イーン！

しゃくなげ

姉さん。

山子

なあに。

しゃくなげ

…武蔵の馬小屋にいらしたのだけど、この方はどなた？

ワコ

イーン！イーン！

ちよつと黙つてくれれる？

物思いの喜劇

ワコ

すいません。

山子

どなたって、武藏でしょ？

しゃくなげ

武藏は！馬よ！！

ワコ

しゃくなげさん、実は僕は武藏なんだ。あなたを乗せて平原を走ったこと、決して忘れられないよ。君への思いからこうして人間に姿を変えてこの世に生まれ変わったんだ。

しゃくなげ

…本当に？

ワコ

ああ。ほら、足の傷もそのままだ。どうだい、なんだって聞いてご覧！どんなことだつて答えてあげるよ、イーンイーン。

しゃくなげ

私の夢は？

ワコ

毎晩語つてくれていたね。大きな夢。素晴らしい夢。家族にも言えなかつた夢。でもこの武藏にはその夢を果たした姿がこの眼にはつきり浮かぶよ。

しゃくなげ

武藏！

ワコ

小次郎！

しゃくなげ

え？

ワコ

つい。

銀次郎

もしや！ 若じやありませんか？

ワコ

ちがうヨ、武藏だよ？

銀次郎

いいや、やっぱり間違いない。その声、若だ。

あづま

若つて銀次郎さんところの？

銀次郎

ええ、社長の息子ですよ。昨日から失踪しちまつていて、

山子

あの会社の…。

ワコ

ちがうヨ、武藏ダヨ。にんじん食べたいなあ。

そこにたら子が庭から戻ってきて

たら子 あ、しゃくなげお姉ちゃん、おかえりなさい。

しゃくなげ ただいま、たらちゃん。

たら子 あ！ このひとが、しゃくなげお姉ちゃんです。

15

物思いの喜劇

ワコ

たらちゃん！ 僕は、本当はこの家のお馬さんだつたんだ。

え！ お馬さん！？

そうだよ、乗つてごらん。

わーい。

ワコ イーン！イーン！

やめてください、若ア！！

黙つてな、男がこの道で生きてくと決めたんだ。

やつぱり若だ！

しゃくなげ …武蔵、ほうら、あなたが大好きだつた草よ。

しゃくなげ イーン？

銀次郎 若に草食えつてのかア！

たら子 はい、お馬さん、召し上がれ。

ワコ 草ア w w いただきまーす w w

銀次郎 どうしてそこまで！

ワコ 愛だよ。

たら子 しゃくなげ ね、覚えてる？ あの吾妻山に一緒に登つた日。

ワコ もちろんさ。山の頂上に行つて、落ちてくるような星空をふたりで見あげた

ね。

たら子 ねえねえ、食べないの？

ワコ 醬油かなんかもらえますか？

しゃくなげ …やつぱり、あんた、武蔵じやない。

ワコ 武蔵だよオ、イーン。

しゃくなげ もしかしたら武蔵かもつてちよつと信じじやつたけど。…この家の人は吾

妻山には決して馬を連れて行きません！

ワコ ええ！？騙したんですか！？

おいおいおいおい、若に嘘ついてんじやねえぞ！

黙つてろオ、銀次郎オ！

ワコ へい！

銀次郎 しゃくなげ 最初に騙したのはどつち！

物思いの喜劇

たら子 えー、お馬さんじやないの？

ワコ うん、ごめんねー、人間でした。でも草は食べれるよオ？。ムシャムシャム  
シヤ。

やめてください、若ア！

（顔を出して）見て驚け、銀次郎！僕だア！

銀次郎 今更すぎますよ。

しゃくなげ …山姉さん。こんなバカなことまでして行かせたくないの。

山子 ええ。

しゃくなげ この家のため？

山子 あんたのため！

しゃくなげ この家に、この村に捕らわれていることが私のため？家のために好きでも  
ない男と結婚させられるのが！？

あづま 結婚？

しゃくなげ あづま、あんたも気をつけなさい。勝手に縁談持つてこられるよ。

あづま 山姉？

しゃくなげ あたしみたいになつてほしくないの。

山子 結構です！

しゃくなげ 誰か良い人がいるの？

山子 しゃくなげ 山姉には関係ない。

あづま ああ！あああ！わかつた！！そういうこと！

ワコ そうです、僕がいるよ。ともに行きましょう、花の都の東京へ！

銀次郎 何言つてるんですか、若ア！

馬小屋で聞いてました。あなたの歌声に惚れました。  
またそれですか！

ワコ

銀次郎

はじめは愛してもらえなくたつていい。東京じゃ金も入り用でしそう。目と  
口と鼻と臓物のある財布だと思つてください。

あづま ちよつ待つたア！ 中吉ちゃん！

あづま、中吉が隠れていた場所を暴き

物思いの喜劇

中吉

あ、どうも、皆さん。

中吉イー！ 島田の家の者が何のようだ！

いやあの、

出てゆけエ！ 出てゆけエ！

山子

あづま

たら子

負けないで、中吉！ 今こそ思いの丈を！

山子

あづま

たら子

がんばれー！ がんばれー！

一久（声）

山子、山子、

ワコ

さ、今のうち！ 乗つてください、あなたの馬になります、ヒーン！

銀次郎

やめてください、若ア！

しゃくなげ

うるさーーい！！

一瞬、静寂

一久（声）

山子、山子、

あづま

山姉。呼んでる。

山子

たら子ちゃん、ちょっと一久お兄様のこと見てちようだい。

たら子

はーい。大丈夫？ 一久お兄様？

一久（声）

たら子、おかえり。

たら子

ただいま。

一久（声）

山子は？

たら子

山子お姉ちゃん、呼んでるー。

一久（声）

山子、山子お…。

山子

兄様！ 頑張って！

あづま

山姉！！ ここは大丈夫だから、任せて。

山子

あづま。

山のお告げなら私も信じるから。

山子

しゃくなげ！ とにかく許しません。とにかく今日は今日だけはダメ！

島田は、帰れエ！

物思いの喜劇

中吉

ごめんなさい！

山子退場

しゃくなげ

…ごめん、ありがと。今のうち行くね。

あづま

その前に一個だけ、ね。中吉ちゃんから、

中のさ、あづま。

うじうじするな！頑張れ！

あづま

しゃくなげ

…・・・あ・・・うん、東京行く前にあんたに会えると思ってなかつた。・・・

それで、なに？中吉。

中吉

えっと、

ワコ

そここの若人、待たれい！

銀次郎

帰りましようよ、若。

銀次郎

嫌だ！この人と一緒に上京物語するの！

銀次郎

若ア。

銀次郎

ええ！？

ワコ

だがしかし。僕を応援してくれたら、僕がなんとかしてやろう！

銀次郎

本当ですか！？

ワコ

うん、いいよー。

中吉

あづま

ああ、もう！しゃく姉、中吉ちゃんがね、しゃく姉のこと。

ワコ

なるほど、その男も、しゃくなげさんに恋に焦がれた恋敵。これはひとつ、

しゃくなげさんにどちらが東京の伴としてふさわしいかを決めていただく  
ということはどうでしょ。

頑張れ、若ア。

銀次郎

しゃくなげ

待つて、

先手、ボク！古来からあの吾妻山は、京の都で恋の山と言わされて、たくさん

## 物思いの喜劇

の和歌が詠まれていたそうですね。ああ、確かにあの山から絶えずのぼる噴煙のように。あなたの声に、あなたの姿に、燃え続いている僕の心の恋の炎。あなたためならどこへでも！ イーン！

しゃくなげ それやめて。

ワコ 次、どうぞ。

中吉 あづま ほら、中吉！ 負けるな！

中吉 あづま ちがうんだよ…

中吉 あづま がんばって！

中吉 あづま 僕が、僕がずっと好きだったのは、あづま。君なんだよ！

え、

中吉 しゃくなげ え？

中吉 うん…。

あづま えっと、私？え、嘘、だつて、いつもお姉ちゃんの話。

中吉 なに話したらいいかわかんなくて。

あづま え、私？え、本当に、え…。

中吉 うん。ダメ、かな。

ワコ ひゅーひゅー。

銀次郎 おめでとうございます。

ワコ それでは、しゃくなげさん、ということで、

しゃくなげ …最後まであづまは、ズルいね。

あづま え、なに。

しゃくなげ 学校にも通わせてもらえる。ちっちゃい頃から頭良かったから。あんた学校通わせるために母様はさ、残ってた家のモノまでみーんな売っちゃって。私は、行かせてもらえなかつたのに。そんな服も着てみたかつた。

あづま しゃく姉…。でも、私は福島座連れてつて貰えなかつたし、その、

しゃくなげ それしかないの。それしかないから私には。だから、その時見た夢にすがつてそれだけなの…！

しゃくなげさん。あなたはとても魅力的ですよ。

物思いの喜劇

しゃくなげ ワコ しゃくなげ ワコ しゃくなげ ワコ  
：武藏。 え？ 武藏！！ イーン！  
しゃくなげ 一緒に行こつか。あっち行つたらなんとかなるって思つてたけど、やつぱり不安だつたし。  
財布しまーす。銀次郎うまいこと言つておけ。

山子出できて

山子 それで良いの？しゃくなげ。銀次郎さんも、大事な坊っちゃんの駆け落ち手伝つたなんてバレたら首よ。  
銀次郎 えええ！それは困ります！  
一久（声） 山子、山子オ、死ぬう。  
山子 兄様は死なないわ！！  
一久（声） 死ぬう。  
山子 死なない！  
一久（声） 死ぬ։。  
山子 死なないって言え！！  
一久（声） 死なない։。  
たら子（声） そう！死なない！！兄様にお告げは出ていないもの！たらちやん、よろしく！  
山子 しゃくなげ しゃくなげ しゃくなげ  
：山姉も安心でしょ。この人、お金持ちでしょ。この家にとつても良いことじやない。  
許しません。銀次郎さんの会社のぼっちゃんでしょ。山を荒らすような奴ら、あれは駄目、これは駄目、私が決めたことが気に食わないんでしょ！  
違う！  
山子 ワコ 山子 あの、お義姉さん。

物思いの喜劇

山子 ワコ 山子

ワコ 山子 まだ早い？

永遠に来ない。

山を荒らすってのはウチの父の会社の？あれは別に荒らしてるわけじや。佐原（さばら）の山道に、やけに馬車が通るようになつて。なにが始まる

のかと思ったら、硫黄を取つているそうですね。

ああ、硫黄はこの日本に、世界にもっと必要になつてきますからね！あんなことして。山の怒りを買います。

山子 ワコ 山子

銀次郎

あづま

山子

山子 銀次郎

中吉

山子

父のことは謝ります、謝つたって仕方ないってことは解るけど。でも、うちの父ももう死にました。酒呑んでぶつ倒れて、死んだって家への恨みは終わらない！

忘れようよ、山姉。恨んだって悔やんだって仕方ない。

恨みは忘れちゃいけないこと？

恨みの根っこは事実！あんたずいぶんと島田の家のモノの肩持つわね。

この人は中吉！ 島田の家のモノなんて名前じやない。

島田の血を継いでいるのは本当のことでしょ！

：あのね、そりや硫黄が毒にもなるってことは解つてますよ。だけどウチの会社も、慎重にやつてますし、ましてや村に被害なんて出てないでしょ。

山子

ワコ

何を言つても山を荒らしてゐるでしようが！  
ちよつとしゃくなげさん、ずいぶん古い考えのお義姉さんですね。そりや逃げ出したくもなる。

しゃくなげ  
…逃げ出す？

ワコ  
ええ、僕ももううんざりなんですよね、こんな田舎。早く出ましょう。嫌な

んでしょ？

しゃくなげ  
…三十年前、あの吾妻山が噴火しました。

ワコ  
え？ああ、なんか聞いたことあるか？

銀次郎  
ええ、二人、亡くなつてますね。どこかの職員だつたか。

ワコ  
それは氣の毒に。僕、地元の人間じやないから知らなかつたですよ。ほら、素敵な恋の山つてことはばつちり記憶してましたけどね！良い山です。

しゃくなげ  
…噴火のとき硫黄の煙が吹き落ちて、村が駄目になつた。そういうことを私たちは覚えているんです。でも、外の人たちはもちろん知らない。

ワコ  
そりや三十年も前のことですから。

しゃくなげ  
私も産まれていない。

ワコ  
それがなんだつて言うんです？

しゃくなげ  
…昔の人たちは吾妻山にね、牛や馬の足跡がつくことすら忌み嫌つたそ�です。道をつくることすら反対した。

銀次郎  
あんた、ウチの会社に硫黄採掘をやめろつて言いたいのか？

しゃくなげ  
わからない。

銀次郎  
わからない？じゃあ、黙つたほうが良い。

しゃくなげ  
だけど、これも本当のことだから。事実だから。言葉にしたくなつて。

銀次郎  
文句があるなら、硫黄鉱山で働いてる奴らの前で言つてみてくださいよ。オレも最初はあそこで働いてたんだ。命かけて、汗水垂らしてやつてんですよ。それでようやく給金貰つて、そんで、懐手（ふところ）で瀬上（せのうえ）行つて遊ぶんだ。店も俺たちのこと喜んでくれて、町も大いに賑わつて。…おい、それが悪い理由があるつてのか？

しゃくなげ  
悪いつて言いたいんじやなくて！…事実と…現実…。そう、中吉が島田の家の血を引いているのはほんとうのこと。中吉の父親が博打でウチから金む

しり取ったのもほんとうのこと。でも、それでも、島田の家のモノと、白樺の家のモノが惹かれ合ってしまう現実。ほんとうのことが、事実が積み重なるても、現実は違う結果になる。

あつま  
しやく姉...?

江戸川の水文

しやくなげ 怪我をした武蔵を…馬を売らなければ生きていけなかつたのは 事実かな

現実かな 私が女優という夢しか見られなくなつたのは事実か 現実  
疏黄を取つて国が豊かになるのは事実だとして、その先の現実は?

ワコ  
豊かにならない選択をしていった「現実」は僕には見えますよ。我が国は国

民一丸となり国を富ませ、強くしてきた。外国じゃ、山や川を「自然」と呼び、闘い、征服してるんだ。広大な「自然」すら征服出来る。ボーッとしてたら、この国も征服されてしまうんです。今までみたいに、山や川に生かされるなんて考えちゃいけない。闘うんだ！しゃくなげさん、あなたが行く東京はそういう場所だよ。何もかもが新しく、あらゆる古いものと闘わなければならぬ。

しゃくなげ  
…闘つて勝てるの？

ワコ  
山子  
勝てる。たとえ、どれだけ大きな山だって山肌を削ることが出来るんだ。  
新しい時代ではそれが出来る。不安に思わなくたって良い。僕がいるよ。  
あの山には、白くて大きなしやくなげの花が咲く。どうなつていくの？そ  
の花は。

ワコ 時代についてこれないものは、置いていくしかない。それに構う時間はいま  
はまだ無い。大丈夫、どんな悲しい決断だって、生きている限り忘れていく。  
大きな噴火だって、十年、二十年、三十年と経てば、忘れられていく。  
それが現実?

ワコ

しゃくなげ  
… そうか。私は現実を変えるために、夢を見るのかもしれない。夢を見せた  
いのかもしれない。

ワコ  
しゃくなげ  
何を言つてゐるのか解らないな。  
ごめんなさい。私は、あなたと一緒にいたくない。

物思いの喜劇

ワコ  
え?

しゃくなげ

え？

どんなにそれが必要で、この先を見据えたことでも、あなたたちのやつていること、好きじゃないの。好きじゃないことを好きじゃないと言<sup>う</sup>ことくら

こんな柄はどうして?

しやくなげ  
……生まれ育った場所だから

只二

そろかましれない それでも子との頃から見てきた山々は、きっと一生愛しやくな

わらすこの胸にある それが良いか詰類かしやなくてある

わ  
か  
ん  
な  
い  
こ  
と  
た  
な  
あ  
結  
局  
古  
い  
ん  
た  
あ  
ん  
た  
も  
良  
い  
ん  
で  
す  
ね  
本  
当  
に  
?

女ひとりで東京に行って、やがていけると思つてゐた

しゃくなげ  
…そうです  
一緒に東京に行っていたたけるという  
ありかたいお申し出て

すか  
お謝りします

馬鹿にはつまみあつてられないや……行こう 銀次郎

銀次郎 良いんですか 若

ワエ  
借金はちやど返して貰えよ

山子  
…申し訳ございません。今は手持ちがありませんので

無いぢやねえんだ

中吉 あの 今日の分は僕が払います ですから

あつま  
中古

これはウチの問題です。

中吉

山子  
それじや卑怯たよ。錢人質に嫁取ろうてものです。

吉乃は

銀次郎  
ウチとしては誰から貰つたって構わないんですけど

私が女優になつたら今借りてるお金に倍の利子つけて返してやります。どうせやくなげ

うかお引取りを

卷之三

しゃくなげ

物思いの喜劇

ワコ

いかないんだよ。それが事実で現実で真実。さ、払うものは払わなきや。銀次郎！向こうに長男さんがいるんだろう貰つてきな。

銀次郎  
あ、こここの長男は病氣でして。

ワコ

一番下の妹が部屋に入つてつたろ。流行り病じやねえってことだ。そういう布団の下に隠してるもんだ。行つて来い。オレも探させてもらうぞ。

あづま  
やめてください、やめて！

ワコ  
ああ、それなら。こつちも鬼じやねえ、そうだな、東京行きの切符くらい貰つていこうか。

しゃくなげ  
…解りました！これで良いなら！

山子  
待ちなさい。

山子、隠してあつたなげなしのへそくりの錢を取り出し、ワコに投げつけて

持つていつてください。今日の分は足りるでしょ。

山子  
こんなに隠してやがったのか！

銀次郎  
ワコ  
…銀次郎、今度からは床板引っ剥がしてでも探し。…随分と業が深い家だ。

行くぞ。

銀次郎  
はい。

ワコ、銀次郎退場

中吉  
あづま  
あの、

中吉ちゃん、ごめんなさい。

中吉  
あづま  
あ…そつか…。

自分で選びたいの。

中吉  
あづま  
これから先、僕が選ばれること、ある？  
それは解なんいけど。なくはないと思う。

じやあ十分。山子さん。僕は本気ですから。家とか関係なく、

…解つたよ、中吉。…旅立ちまでの少しの時間、家族だけにしてくれないか。

山子  
中吉  
山子

物思いの喜劇

しゃくなげ

姉さん、

中吉

あ……はい、しゃくなげさん、頑張ってください。

しゃくなげ

うん、ありがとう。

中吉

それじゃ、あづま、また。

あづま

うん。

中吉退場

しゃくなげ

山姉、

・・・大事な切符、放り出さないの。

山子  
しゃくなげ  
・・・本当は不安で不安でたまらない。どうしよう…きっと、ある人が言つてることも本当。

山子  
しゃくなげ  
業、業、業…。職業婦人だ、モダンガールだ、女優だなんて騒いでも、男どもに与えられただけ。同じ口で女は業が深いなんて言うんだ。

山子  
しゃくなげ  
女の身ひとつで生きていける場所じゃないんだと思う。ひとりじや…。

山子  
あづま  
しゃくなげ  
「元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他に依つて生き、他の光によつて輝く、病人のような蒼白い顔の月である。」

山子  
あづま  
しゃくなげ  
なに、それ。

山子  
あづま  
しゃくなげ  
女学校行かせてもらつて、これだけ覚えた。しゃく姉と、山姉のために覚えられたんだと思う。平塚雷鳥（ひらつからいちょう）の書いた本のいちばん最初。しゃく姉も、山姉も、自分で輝ける太陽だと思うんだ。

山子  
あづま  
しゃくなげ  
♪いのち短し 恋せよ乙女

山子  
あづま  
しゃくなげ  
あかき唇 裾（あ）せぬ間に  
熱き血潮の 冷えぬ間に

山子  
あづま  
しゃくなげ  
明日（あす）の月日はないものを♪

山子  
あづま  
しゃくなげ  
その歌、嫌いよ。

山子  
あづま  
しゃくなげ  
うん。

山子  
あづま  
しゃくなげ  
明日もあるから。絶対に。

山子  
あづま  
しゃくなげ  
うん。

物思いの喜劇

山子

：ねえ、どうしても明日じやなきや駄目？

しゃくなげ

新文芸協会の伊藤松尾（いとうまつお）先生からお手紙を頂戴したの。いま映画を撮つて、人が足りないから来てくれないかって。来れるならなるべく早く来てほしいって。そしたら劇団にも入れてくれるかもって。

そんな話がついてたんだ。

しゃくなげ

うん…。うん…。

山子

：実はね、山のお告げで、明日は南に行くなつて。

しゃくなげ

そうだろうなつて思つてた。姉さんがここまで反対するんだもん。…でも、行く。

山子

そうか。後悔させないでよ、今日この日、大正十二年の八月三十一日に、あなたを東京に見送ること。

しゃくなげ

うん、絶対。

山子

たとえこの先、なにがあつても、明日が無いと思えてしまうようなときでも、ここにお姉ちゃんたちがいる。お姉ちゃんたちだけじやないよ、この故郷がある。ここが帰る場所。留めておいて。

しゃくなげ

…私ね、人間には勝てないと思うんだ。あの山。とんでもなく深いよ。立ち込めた霧の中にいるだけで、死ぬかもって思うもん。無くせるわけない。当たり前でしょ。あの吾妻山もそこにある。…死なないでね。

山子

大げさ。

しゃくなげ

旅立ちは大げさくらいが良いの。さ、兄様に挨拶して来なさい！

うん。

しゃくなげ退場

山子

：あづま。月光姥神（げつこううばがみ）様つて見たことある？  
姥ヶ原の？

あづま

うん。姥神様から先はね、女は入つちやならないって言われてた。山に入つていく父ちゃんとが羨ましかった。ここから先にもきれいな草花があるって。父ちゃんと山になんか行つてたんだ。

あづま

うん。

物思いの喜劇

山子 あづま  
うん、父ちゃんが露助との戦争行つて怪我して帰つてくる前はよくね。  
私は行つたことないなあ。

山子 あづま  
：女は穢（けが）れがあるから駄目だつて。死んでも血の池地獄に落ちる。  
女に生まれたのは前世の業が深いからなんて。あれを言われたのはやつぱり旅順（りょじゅん）から帰つてきたあとだった。：私ね、姥神様に祈つてたんだ。来世こそ、男に生まれますようによつて。

山子 あづま  
山姉。

バカバカしいね。

山子 あづま  
うん、バカバカしい。そんなこと信じたら良いように使われちやうよ。

「元始、女性は実に太陽であつた。」

山子 あづま  
本貸してあげる！

読めるかなー。

山子

しゃくなげ、たら子出てきて

山子 あづま  
しゃくなげ、たらちやんにも、ね。

山子 あづま  
しゃくなげ。これ持つてきなさい。

なに？

山子 あづま  
銀次郎が持つてきてお土産。美味しいもの入つてるんじゃない。

さすが山姉、ちゃつかりしてる。

山子 あづま  
ちなみに銭もそこら中に隠してあるから。心配しないで！

ね、あづまお姉ちゃん、すぐ行つちやうの？もうお歌聞けないの？

そう。しゃくなげお姉ちゃんは、もつとたくさんひとにお歌を聞かせるの。  
そつか！みんなニコニコだね。

山子 あづま  
うん。

たら子 あづま  
もういっこだけ歌つて？

たらちやん、列車間に合わなくなつちやうから。

しゃくなげ  
ね。  
良いよ。じゃあね…たらちやんでも歌えるのにしよつか。学校で習つたやつ

たら子 うん！

しゃくなげ  夢追ひし 彼の山

全員  小鮎（こぶな）釣りし 彼の川

夢は今も巡りて 忘れ難き 故郷

しゃくなげ  忘れ難き 故郷

それじやあ、行ってきます  
行つてらっしゃい！

全員

全員が庭まで出て行き見送る。雲の切れ間から、わずかに明るい陽が差している。ひぐらしの声。今日は大正十二年八月三十一日。明日、東京で起こる出来事を誰もまだ知らない。（幕）

### 引用

こがね虫（作詞・野口雨情 作曲・中山晋平）

ゴンドラの唄（作詞・吉井勇 作曲・中山晋平）

故郷（作詞・高野辰之 作曲・岡野貞二）

平塚らいてう『青鞆』発刊の辞（小林登美枝・米田佐代子編『平塚らいてう評論集』 岩

波文庫一九八七年より引用）